



第21回上田八木・金融政策サーベイ(2018年7月)の結果について

～回答者の大半が今回のMPMでの政策変更なしとの見方、金利見通しについては3か月先の「無担保コールON金利」は不変の一方、「10年利付国債金利」は「上昇」との見方が大幅に増加。

2018年7月27日(金)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 回答者(172先)の94%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。
- 3ヶ月先の「無担保コールON金利」の予想は前回から変化なし。
- 「10年利付国債金利」の予想では「上昇」との見方が大幅に増加(前回9%→今回40%)。
- 金融緩和からの「出口開始時期」は、1年未満と回答する先が増加(前回4%→今回9%)。

【調査の概要】

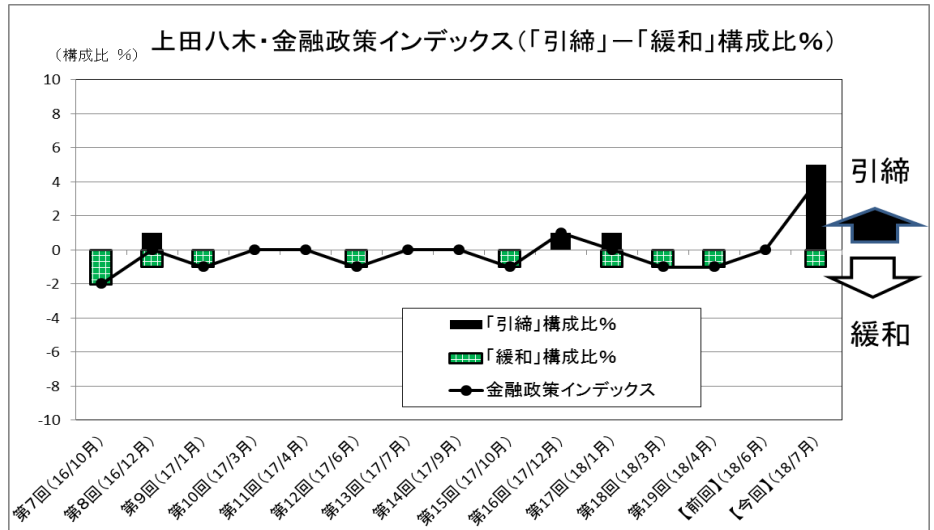
調査方法	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(193先)
調査方法	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2018年7月24日～26日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	89.1% (回答者数172先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1)日本銀行の次回の金融政策決定会合(7月30日～7月31日)における決定について

回答者の94%が「不変」の見方。

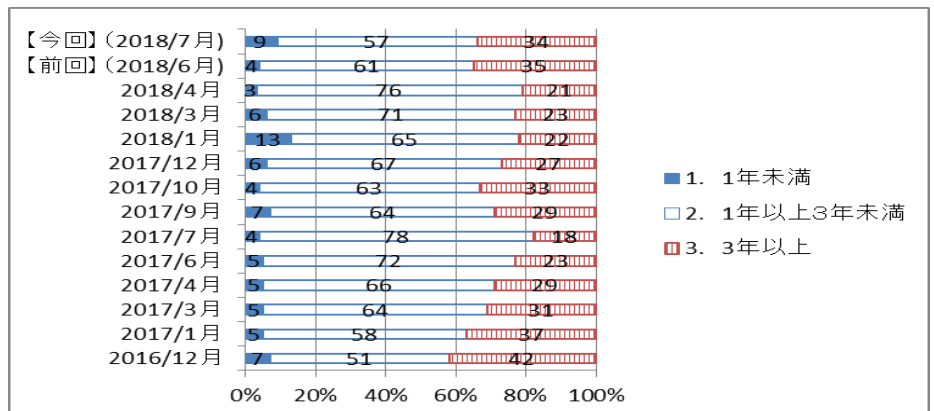
上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「4」(前回は0)だった。



(ご参考)

【今回14回目となる追加質問:Q5】現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

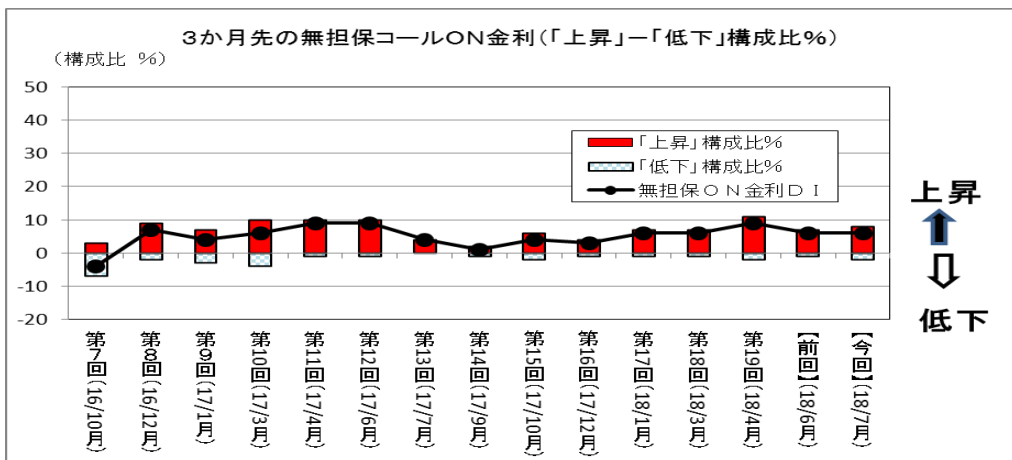
1年未満と回答する先が9%に増加(前回4%)し、1年以上3年未満と回答する先が57%に(前回61%)に減少。



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の90%が「不変」と予想。2%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は8%だった。

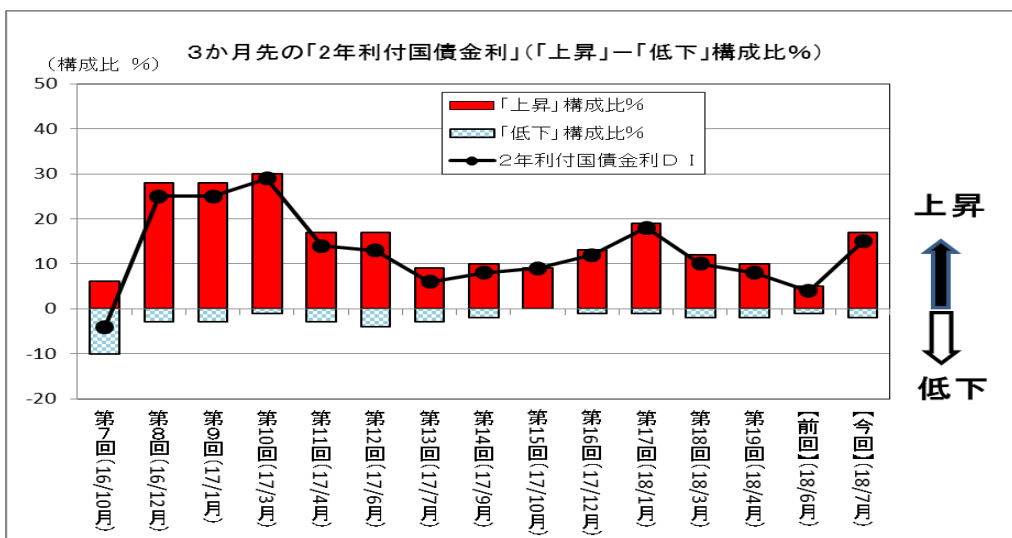
前回との比較では、「上昇」とみる先は+1%ポイント(前回7%→今回8%)。「低下」とみる先も+1%ポイント(前回1%→今回2%)。「不変」とみる先は▲2%ポイント(前回92%→今回90%)。



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の81%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者2%。「上昇」を予想した先は17%であった。

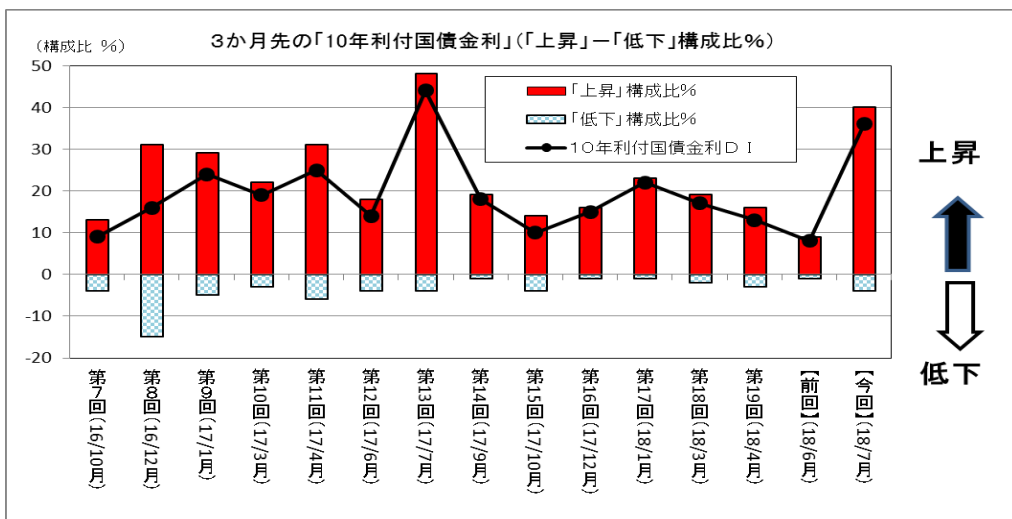
前回との比較では、「上昇」とみる先は+12%ポイント(前回5%→今回17%)。「低下」とみる先は+1%ポイント(前回1%→今回2%)。「不変」とみる先は▲13%ポイント(前回94%→今回81%)。



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の56%が「不変」を予想。4%が「低下」、「上昇」を予想した先は40%。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+31%ポイント(前回9%→今回40%)。「低下」とみる先は+3%ポイント(前回1%→今回4%)。「不変」とみる先は▲34%ポイント(前回90%→今回56%)。



【本調査に関する照会先】
企画部 島本、保元 (電話 03-3272-0293)